

澱原用馬鈴薯における豚ぱんペレットを活用した施肥コスト削減

馬鈴薯減肥研究会 代表 須田和貴

調査研究の目的

近年の化学肥料コストの上昇により、所得率の低下が問題となっている。そこで、安価な有機質肥料を活用することで、施肥コストの削減を図る。

調査研究の内容

- ・ 供試作物：澱粉原料用馬鈴薯（品種：コナヒメ）
- ・ 栽培管理：植付日・・・R6:5/3～5/5 R7:4/28～5/9
 収穫日・・・R6:8/25～10/20 R7:8/26～10/30
- ・ R6年度とR7年度との比較（肥料費、収量、収益性）



写真1 馬鈴薯(コナヒメ)
(R7/8/18)

表1 肥培管理(施肥銘柄・量・費用)

年度	施肥銘柄	施肥量 (kg/10a)	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	実施日	費用 (円/10a)
R6	S800	100	8.0	20.0	10.0	4.0	5月2日	16,280
	S800	40	3.2	8.0	4.0	1.6	5月18日	6,512
	NK20	20	4.0	0.0	2.0	0.2	7月19日	2,081
	尿素	16	7.4	0.0	0.0	0.0	8月10日	1,749
	合計		22.6	28.0	16.0	5.8		26,622
R7	S098	90	9.0	17.1	7.2	4.5	5月8日	14,009
	豚ぱんペレット	71	2.5	4.5	1.1	0.0	5月20日	2,493
	尿素	13	6.0	0.0	0.0	0.0	6月30日	1,607
	NK20	17	3.4	0.0	1.7	0.2	7月26日	1,850
	合計		20.9	21.6	10.0	4.7		19,958

昨年比
約25%削減!

※肥料価格はR6、R7肥料年度における早取り価格

R6-7差引 6,664

結果

●R6年度と比べて、R7年度の肥料費は減少したものの、澱粉収量が少なく、収益性は少なくなかった（図1、表2）。

表2 収益性

年度	澱粉収量 (kg/10a)	売上 (円/10a)	肥料代 (円/10a)	粗収入 (円/10a)	差額 (円/10a)
R6	1,052	147,377	26,622	120,755	-
R7	771	109,393	19,958	89,435	-31,320

※売上=品代+数量払交付額

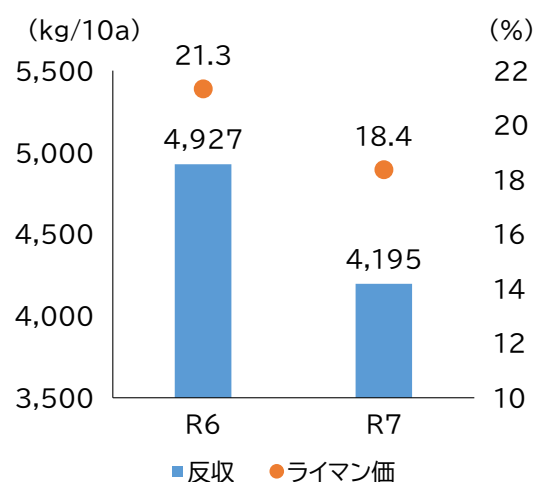


図1 反収と糖分の差(R6～7)

今後の方策・考え方

●R7年度は高温少雨により収量が減少したため、有機質肥料を活用した施肥コスト削減効果は判然としなかった。今後も継続して検討する必要がある。